



寮の友人の家にて



友人たちとビーチにて



学の授業が始まるのが9月の下旬から。すると3ヶ月間の猶予期間があることとなります。私は、この3ヶ月間がとても重要な時間だと考えています。その後からすぐ就職活動が始まり、思ったように時間が使えなくなってしまうからです。4月から始まる春タームの延長線上に、その3ヶ月間があるのだと思います。この春タームをいかに自分のものにしていくのが勝負となるはずです。

留学の意味

前のタームがあつという間に去って、この冬のタームもそろそろ終わりを迎えようとしています。留学当初は、新しい環境になんとか馴染もうと、無我夢中で走ってきた気がします。新しい授業、新しい生活、新しい友達……。そのすべてをうまくいかせようと、必死にもがいてきました。

しかしこの学期の途中で、すべてに嫌気がさして、何をやってもうまくいかなくなってしまう時期がありました。おそらく、今までが頑張りすぎていたのかもしれませんが。自分にとって当たり前でないことも、留学をしているからと割り切ってすべて受け入れるように努力していました。それは、食べ物などの細かな面であり、生活全般や人間関係、授業などの大きな面でもありました。

すべてが負のスパイラルに陥ったとき、一刻も早く日本に帰りたくなりました。ずっと昔から知っている友達もいます。大好きな家族もいます。何不自由のない生活がそこに待っています。

こうやって軽く軽く、重さを極力排除して戯れていけば、存在はどんどん浮き上がっていき、しまいそうになる軽やかさを手に入れられるのかもしれませんが。けれどもそれは存在

の耐えられない軽さというやつで、ときとしてポツカリと穴があいた気分になりましょう。ポツカリあいた心の穴は、少しずつ埋めてゆくほかありません。

それでも、瞳はときに潤う。

どこかの洞窟では、今も水滴が自然の彫刻を作っている。誰かが苦行をし、誰かが人を嫌う、誰かが人を愛す。お風呂の水を手ですくって投げると、その粒が綺麗に真ん丸くなる。

走ると汗が出て、汗はしょっぱく、血は鉄つばい。

いつかは、かたく閉じた瞳からも涙がこぼれる。

留学とは、留学そのものが目的ではないはず。海外という異国に行って何を感じ、何を学び、何を掴むか。そしてその後どう活かせるか。私が留学をしたのは、自分の専門分野をより深く学んでいくと共に、海外生活での経験を将来に生かしていこうと考えたからです。そういった意味で、喜びや楽しさ、困難や苦しみといったことをすべてひっくるめて、私はいま様々な経験ができています。

この留学生活に感謝します。それと共に、はや6ヶ月が過ぎ去ってしまったことに驚きと焦りを覚えます。そして、有限なる時間を有効に使わなければと再確認させられます。それでも、留学をしていて、かけがえのない時を過ごすことができている幸せです。いろいろな人と物に驚きと感謝こめて。

清沢 健二 (きよさわ けんじ)

早稲田大学教育学部 3年

9月から1年間、オレゴン州 Oregon University に留学中。



留学プログラム終了まで後3ヶ月あまりとなった、清沢君のレポートです。身体的・精神的にも少し疲れが出てきている様です。

清沢君の性格は、自分自身も好奇心が強い上、友達付き合いもいまい方ですから、身体的に疲れが溜まってきたと思います。

その上、この大学はQuarter制のようで、10週間の講義と1週間の試験期間という、日本の大学では考えられない、集中力のいる大学生活を強いられています。さらに、渡米して半年あまり、外国生活の興奮期が終わって、留學生生活を振り返る余裕も出てきていますが、同時に多少の倦怠感を感じる異文化適応のサイクルにはまっているようです。それらが混在して、精神的な疲れとして出てきているのでは？

私の分析はどうであれ、清沢君が残り3ヶ月を実り多く過ごすことを心から願います。夏には、早稲田のクラスへ来て報告してくださいね。



グランド・キャニオン旅行にて